





## 善意の輪で「救急車」6台、外傷病院へ寄贈



12月12日、モンゴル国立外科病院で日本から寄贈された救急車6台の引き渡し式が行われた。当日は大勢の医師や看護婦など病院関係者が集まる中、日本のNGOホランの会（佐々木会長）から寄贈された6台の救急車がお披露目された。ここに至るまでの経過には、多くの善意の輪が広がって実現したものと病

院関係者から感謝の言葉が述べられた。

昨夏、ホランの会による日本とモンゴルの子どもたちの親善交流旅行が行われた。ツアーの一行40人がアルハンガイ県ツェンヘルキャンプ場へ向かう途中、乗っていた

車にトラックが追突するという事故が起きた。この事故により児童や引率者たちの多くが骨折や肺がつぶれるなどの重軽傷を負った。緊急の要請を受けた外傷病院から医師が現場へかけつけ応急処置を施し、ヘリコプターでウランバートルへ搬送するのも迅速に行われた。帰国したホランの会ではお礼の気持ちとして

救急車の寄贈を考え、社団法人・日本外交協会に相談を持ちかけた（外交協会は中古車や救急車を修理してモンゴルなどへ送っている組織）。話は順調に進み、二年越しに日本の救急車がモンゴルに到着したのだ。「救急車6台の寄贈が実ったのも、病院関係者とジグール社（旅行）の梅木社長、外交協会のおかげです。特に梅木さんは煩雑な書類作成その他、現地と日本をつなぐため尽力してくださった。救急車は有効に活用してください」とホランの会モンゴル代表の中西令子さんが挨拶した。

“けがの功名”とは言え、両国の善意のリレーが生んだ“救急車秘話”。6台のうち2台は地方の病院に寄付され、15日、ダシチレン村に到着した。ホラの会では子ども車いすも寄贈している。